

「自分らしさって何？」

城南中学校 三年 酒井 純

「自分らしさって何？」と聞かれても、すぐにはうまく答えられない。以前は、なんとなく「まあ自分はこんな感じかな」としか思っていなかったし、わざわざ考えたこともなかった。しかし、中学校生活の中でいろいろなことを経験して、自分なりに「これが自分らしいのかもしいれない」と思える場面が増えてきた。

今の自分が思う、「自分らしさ」とは、簡単に言えば、「人それぞれ違ったとしても、お互いにうまくやっていけること」だと思っている。その中で、自分の場合は「仲のいい友達と自然に話しているとき」や「得意なことをきちんと活かしているとき」が一番自分らしいと感じる。

自分は、大人数の前や、知らない人ばかりの場ではあまり話しかけられないタイプだ。しかし、仲が良い友達と一緒にいると、ふざけたり、元気に話したりできる。自然にそうなることができる。授業で仲の良い友達とペアになったときだった。緊張もなく自分の考えを遠慮せずに伝えられ、お互いに協力することができた。後にその友達に「やりやすかったね」と言われて、なんだか嬉しかった。

別の場面で、自分らしさを感じたタイミングはサッカー部の最後の試合であった。中学校三年間自分はサッカーを続けてきたが、正直、毎日コツコツ努力するのは苦手だった。しかし、試合のときは不思議と集中することができ、「やってやるぞ」という気持ちになった。中学校総合体育大会の開催の日、自分自身のプレーに納得できた。結果は敗れたが、仲間と全力でプレーしたことが嬉しかった。あのときの自分は、本当に「自分らしかった」と思う。

自分には得意なことがある。それは数学だ。答えが一つに決まっているところや、考え方のパターンがはつきりしているところが好きだ。テストですつきりと解けたときは、「自分はこのようなことが向いているな」と思うことができる。

しかし、得意だからといって努力なしにできるわけではない。だからこそ、苦手な「コツコツ努力」を少しでもできるように、好きなことから頑張っていこうと考えている。

最近はいの技術が猛スピードで進み、未来の仕事もどんどん変わっていくらしい。自分は将来、AIを使った仕事がしたいと思っている。理由はシンプルで「面白そうだから」だ。AIは、たくさんの情報を学び、自分で考えて答えを出す。それは、なんだか人間と似ている。

しかし、AIにできないこともあると思う。例えば、「協調すること」や「思いやりをもって関わること」は、人間にしかできないことだと思う。だからこそ、みんなが違うことを受け入れながら、一緒に何かを作り上げていく力が、これからの社会では大事になるのではないかと感じている。

「自分らしさ」は、人と比べて分かるものではない。自分が自然でいられるとき、自分が好きなことに取り組んでいるとき、そして誰かと協力できたとき、「これが自分らしさだな」と感じる。それは、特別なものではない。友達との会話、部活動の試合、授業中のちょっとした発言。そんな日常の中に、自分らしさは隠れている。

これから先、自分がどんな道に進むのか、まだはっきりとは決まっていない。しかし、どこにいても、どんな仕事をしていても、「自分らしく」いることは大切にしたい。他の人と同じでなくていい。自分にしかない強みを見つけて、それを活かしていく。それが、自分の考える「自分らしさ」だ。